



「環境白書」の発刊にあたって

三重県知事 鈴木 史敬

環境をとりまく問題は、廃棄物や大気・水環境などの身近なものから、地球温暖化や生物多様性の保全など地球規模のものにまで広がりをみせています。

そして、3月11日に発生した東日本大震災は、被災地に甚大な被害をもたらし、多くの方々の尊い命を奪うだけでなく、日本全国においてもエネルギー問題など新たな課題を私たちに突きつけました。

しかし、私たちはこの危機に際し、国民、企業、行政などが一体となって省エネルギーに取り組むことによって、今夏のエネルギー危機を乗り越えることができました。

幅広く、多岐にわたる今日の環境問題についても、私たち一人ひとり、企業、地域の団体やNPOなどのあらゆる主体が、そのライフスタイルや事業活動のあり方を見直し、連携・協働することで、解決に向けた新しい方策を見いだすことができるのではないのでしょうか。

現在、本県では、概ね10年先を見据えた県の長期的な戦略計画である「みえ県民カビジョン(仮称)」を策定しているところです。このなかで、自然を大切に、環境への負荷が少ない社会の実現に向けて、さまざまな主体との連携により、温室効果ガスの排出抑制や、廃棄物の発生抑制、再使用、再生利用等の推進、野生動植物の保護・管理、自然環境の保全などに取り組むこととしています。

この白書は、三重県環境基本条例第10条に基づく年次報告として、平成22(2010)年度における三重県の環境の状況と、「環境基本計画」などによる取組の結果を含めた三重県の環境保全に関する施策全般をとりまとめたものです。

本書を通じて、皆さんが、今日の環境問題に対し、ご理解を深めていただき、環境保全のための主体的な行動を起こしていただくことを願って、発刊にあたってのご挨拶とさせていただきます。

平成23年11月